

6 資格の取得

1 全般

社会では、色々な職業に関連して多くの公的資格が設定されているが、特に大学在学中又は卒業直後を対象として、各学科に關係の深い資格について紹介する。

就職活動の一環と考えて、1年次から準備しておくことが肝要である。

なお、細部については、各学科の先生方に問い合わせること。

2 取得可能資格一覧

連番	資格の種類	受験資格のその他	△印：試験科目一部免除		○印：在学中に取得可能 ●印：卒業時に取得可能
			科目 免除	取得 時期	
1	教員職員免許 一種 中学技術・高校工業	本学教職課程を受講した卒業者であること。 (参照：5教職課程の履修について)		●	工学部全学科 情報電子システム工学科 機械システム工学科
2	陸上無線技術士（2級）				
3	陸上無線技術士（1級）				
4	陸上特殊無線技士（1級）	卒業者、所定科目的単位を修得 申請のみで、免許取得できる (参照：(3)履修科目と単位のア)	▲		
5	海上特殊無線技士（2級）	卒業者、所定科目的単位を修得 申請のみで、免許取得できる (参照：同上のイ)	▲		
6	海上特殊無線技士（3級）	卒業者、所定科目的単位を修得 申請のみで、免許取得できる (参照：同上のウ)	▲		
7	電気通信主任技術者	第一種伝送交換主任技術者 第二種伝送交換主任技術者 線路主任技術者 (参照：同上のエ) 所要の単位を取得後免除	△		
8	工事担任者 アナログ第一種～三種 デジタル第一種～三種 アナログ・デジタル総合種	①4年次受験可能 ②所定科目・単位の修得が必要である。 (参照：(3)履修と単位のオ)	△	○	
9	情報処理技術者 (IT パスポート・基本・応用)				
10	2級ガソリン自動車整備士	本学機械システム工学科交通機械コース を受講した卒業者であること。 (卒業時に受験資格が得られる。)	△	●	
11	ボイラー技士				
12	特殊ボイラー技士	実務経験2年以上			
13	ボイラー・タービン主任技術者	機械システム工学科卒業者は、実務経験 が短縮される。			
14	ガス溶接作業主任者	機械システム工学科卒業者は、実務経験 が不要である。			
15	冷凍空調技士 (1級)	機械システム工学科卒業者は、実務経験 が不要である。			
16	技術士補	①在学中受験可能 ②4年生理科系大学 卒業者は、1年次共通試験が免除される	△	○	全学科
17	技術士	技術士として、通算4年同一部門技術士 を補助			全学科

連番	資格の種類	受験資格のその他	科目免除	取得時期	取得可能学科
18	航空工場検査員	①在学中受験可能 ②航空工学科卒業者は、国家試験の一部の科目が免除される。	△		全学科
19	測量士補	①在学中受験可能 ②卒業時、申請のみで免許取得できる。 ③測量士補の保有者：土地家屋調査士2次試験免除 (参照：(4)履修が必要な又は望ましい科目)	▲	○ ●	自然環境工学科
20	測量士	①在学中受験可能 ②実務経験1年以上、申請のみで免許 (参照：(4)履修が必要な又は望ましい科目)	▲	○	
21	2級施行管理技術検定の学科試験 (土木・造園・管工事・建築)	①卒業可能な4年次に受験可能である。 (参照：(4)履修が必要な又は望ましい科目) ②卒業後、2級土木施工管理技術検定試験を受験する場合、この試験合格者には、学科試験が免除され、実地試験のみを受験することになる。	△	●	自然環境工学科 建築デザイン学科
22	基礎施工士	実務経験1年6か月以上			
23	ビオトープ管理士	所定の科目受講により試験科目一部免除	△	○	
24	建設機械施工技士				
25	土木施工管理技士 (1級・2級) 2級種別：①土木 ②鋼構造物塗装 ③薬液注入				
26	造園施工管理技士 (1級・2級)	2級：実務経験1年以上			
27	塗装施工管理技士 (1級・2級)	1級：実務経験3年以上、 うち指導監督的実務経験1年以上			
28	電気施工管理技士 (1級・2級)	(参照：(4)履修が必要な又は望ましい科目)			
29	管工事施工管理技士 (1級・2級)				
30	建築施工管理技士 (1級・2級) 2級種別： ①建築 ②躯体 ③仕上げ				
31	浄化槽管理士			○	
32	浄化槽設備士				
33	公害防止管理者				
34	下水道技術者検定			○	
35	環境計量士(濃度)			○	
36	エコ検定(環境社会検定)			○	
37	コンクリート技士	実務経験2年以上			
38	コンクリート主任技士	実務経験4年以上			
39	コンクリート診断士	実務経験4年以上			
40	推進工事技士	実務経験2年以上			自然環境工学科

41	地滑り防止工事士	実務経験 1 年以上			自然環境工学科
42	地質調査技師	実務経験 3 年以上			自然環境工学科
連番	資格の種類	受験資格のその他	科目免除	取得時期	取得可能学科
43	プレストレストコンクリート技士	実務経験 4 年以上			自然環境工学科 建築デザイン学科
44	危険物取扱者 (甲種・乙種・丙種)	乙種・丙種：在学中受験可能 甲種：①「化学」等の科目 15 単位以上の修得 (在学中無理) ②乙種取得後、実務経験 2 年以上		○	全学科
45	水質関係 3 種公害防止管理者 ①大気②水質 1 - 3 種 ③粉塵④振動各関係	在学中に受験可能部門は、内容的に水質関係 第 3 種公害防止管理者のみ		○	自然環境工学科
46	二級建築士	実務経験 0 年		●	建築デザイン学科
47	一級建築士	実務経験 2 年			
48	建築設備検査資格者	実務経験 2 年			
49	建築整備士	実務経験 2 年			
50	インテリア・プランナー	在学中に学科・製図の受験可能、 実務は卒業後			
51	木造建築士	実務経験 0 年		●	
52	CAD 検定			○	
53	福祉住環境 コーディネーター			○	
54	カラーコーディネーター			○	
55	インテリアコーディネーター			○	
56	消防整備士			○	全学科
57	宅建建物取引士			○	全学科
58	土地家屋調査士			○	自然環境工学科 建築デザイン学科

3 資格試験科目の一部又は全部免除となるための履修科目と単位

(1) 第1級陸上特殊無線技士

免除となる受験科目	全科目免除			
適用	平成6年4月から 平成16年3月まで	平成13年4月以降		
	00生以前	(01生以降)		
省令科目	第一工科大学科目			
区分科目名	授業科目 (○印:必修科目)	単位	授業科目 (○印:必修科目)	
無線機器学その他無線機器に関する科目	通信工学I 通信工学II マイクロ波工学I マイクロ波工学II 航空電子工学II A 航空電子工学II B	2 2 2 2 2 2	通信工学I 通信工学II マイクロ波工学I マイクロ波工学II	2 2 2 2
電磁波工学その他空中線系及び電波伝搬に関する科目	電波工学I 電波工学II マイクロ波工学I	2 2 2	電波工学I 電波工学II マイクロ波工学I	2 2 2
電子計測その他無線測定に関する科目	○電気磁気測定I ○電気磁気測定II 高周波計測I ○電子工学実験I ○電子工学実験II	2 2 2 2 2	○電子計測I ○電子計測II 高周波計測I ○電子工学実験I ○電子工学実験II	2 2 2 2 2
電波法規その他電波法令に関する科目	電波法	2	電波法	2

(2) 第2級海上特殊無線技士

免除となる受験科目	全科目免除		
適用	適用なし	平成16年4月から実施 (04生以降)	
		第一工科大学科目	
区分科目名	授業科目 (○印:必修科目)	単位	授業科目 (○印:必修科目)
無線機器学その他無線機器に関する科目			通信工学I マイクロ波工学II
電磁波工学その他空中線系及び電波伝搬に関する科目			電波工学I 電波工学II
電子計測その他無線測定に関する科目			○電子計測I ○電子計測II ○電子工学実験I
電波法規その他電波法令に関する科目			電波法

(3) 第3級海上特殊無線技士

免除となる受験科目	全科目免除		
適用	平成5年4月以降	平成8年4月以降	
	95生以前	96生以降	
省令科目	第一工科大学科目		
区分科目名	授業科目 (○印:必修科目)	単位	授業科目 (○印:必修科目)
無線機器学その他無線機器に関する科目	通信工学I	2	通信工学I
電磁波工学その他空中線系及び電波伝搬に関する科目	電波工学I 電波工学II	2 2	電波工学I 電波工学II
電子計測その他無線測定に関する科目	○電気磁気測定I ○電気磁気測定II ○電子工学実験I	2 2 2	なし
電波法規その他電波法令に関する科目	電波法	2	電波法

(4) 電気通信主任技術者

免除となる試験の科目		電気通信システム								
適用		平成 11 年 4 月以降				平成 13 年 4 月以降 ※				
		99～00生				01生以降				
省令科目		第一工科大学科目								
科 目	授業時間数	科 目 (○印:必修科目)	授業時間	単位	科目免除の対象となる条件	科 目 (○印:必修科目)	授業時間	単位	科目免除の対象となる条件	
基礎専門教育科目	数学	○微積分学 I	30	2	左記の科目のうち 60 時間、4 単位以上を履修	微分学(*1)	30	2	左記の科目のうち 60 時間、4 単位以上を履修	
		○微積分学 II	30	2		積分学(*1)	30	2		
		○微分方程式 I	30	2		○微分積分学(*2)	60	4		
		○微分方程式 II	30	2		多変数の微分積分	30	2		
	物理学	関数論	30	2		線形代数	30	2		
		線形代数学 I	30	2						
		線形代数学 II	30	2						
		○物理学 I	30	2		○物理学入門(*1)	30	2		
専門教育科目	電磁気学	○物理学 II	30	2	同上	基礎物理学(*1)	30	2	同上	
		応用物理学 I	30	2		物理学 I (*1)	30	2		
		応用物理学 II	30	2		物理学 II (*1)	30	2		
		○電気磁気学 I A	30	2		物理学入門演習(*2)	60	2		
	電気回路	○電気磁気学 I B	30	2		○物理学(*2)	60	4		
		○電気磁気学 II A	30	2		応用物理	30	2		
		○電気磁気学 II B	30	2						
		○電気回路 I A	30	2		○電気磁気学 I	30	2		
専門教育科目	電子回路	○電気回路 I B	30	2	同上	○電気磁気学 II	30	2	同上	
		○電気回路 II A	30	2		○応用電気磁気学 I	30	2		
		○電気回路 II B	30	2		○応用電気磁気学 II	30	2		
		○電子回路 I A	30	2		○電子回路 I	30	2		
	デジタル回路	○電子回路 I B	30	2		○電子回路 II	30	2		
		○電子回路 II A	30	2		○応用電子回路 I	30	2		
		○電子回路 II B	30	2		○応用電子回路 II	30	2		
		○電子計算機通論	45	3	左記の科目のうち 30 時間、2 単位以上を履修	○コンピューテラシー	60	2	左記の科目のうち 30 時間、2 单位以上を履修	
		○電子計算機工学 II	30	2		○コンピュータ工学 II	30	2		
専門教育科目	情報工学	情報理論 I	30	2	同上	情報理論 I	30	2	同上	
		情報理論 II	30	2		情報理論 II	30	2		
		ソフトウェア工学 I	30	2		ソフトウェア工学	30	2		
		ソフトウェア工学 II	30	2						
	電気計測	○電気磁気測定 I	30	2	左記の科目のうち 60 時間、4 単位以上を履修	○電子計測 I	30	2	左記の科目のうち 60 時間、4 单位以上を履修	
		○電気磁気測定 II	30	2		○電子計測 II	30	2		
		高周波計測 I	30	2		高周波計測 I	30	2		
		高周波計測 II	30	2		高周波計測 II	30	2		
専門教育科目	法規	(30)	電波法	30	2	左の科目を履修	電波法	30	2	左の科目を履修
	電送線路工学	(30)	電波工学 I	30	2	左記の科目のうち 1 科目・2 单位以上を履修	電波工学 I	30	2	左記の科目のうち 1 科目・2 单位以上を履修
			電波工学 II	30	2		電波工学 II	30	2	
	交換工学	(30)	通信工学 I	30	2	左記の科目のうち 60 時間、4 单位以上を履修	通信工学 I	30	2	左記の科目のうち 60 時間、4 单位以上を履修
	電気通信システム	(30)	通信工学 II	30	2		通信工学 II	30	2	
			マイクロ波工学 I	30	2	左記の科目のうち 60 時間、4 单位以上を履修	マイクロ波工学 I	30	2	左記の科目のうち 60 時間、4 单位以上を履修
			マイクロ波工学 II	30	2		マイクロ波工学 II	30	2	

(注 1) 専門教育科目の時間数は、告示に規定されているが、概ねの目安である。

(注 2) ※1 は、01 生のみ適用

※2 は、02 生以降適用

(5) 工事担任者

免除となる試験の科目		電気通信技術の基礎					
適用		平成6年11月以降 (00生以前)			平成13年4月以降 (01生以降)※		
省令科目		第一工科大学科目					
科 目	必 要 な 時 間	科 目 (○印:必修科目)	授 業 時 間	单 位	科 目 (○印:必修科目)	授 業 時 間	单 位
電気回路	60	○電気回路ⅠA ○電気回路ⅠB ○電気回路ⅡA ○電気回路ⅡB	45 45 45 45	2 2 2 2	○電気回路Ⅰ ○電気回路Ⅱ ○応用電気回路Ⅰ ○応用電気回路Ⅱ	30 30 30 30	2 2 2 2
電子回路	60	○電子回路ⅠA ○電子回路ⅠB ○電子回路ⅡA ○電子回路ⅡB	45 45 45 45	2 2 2 2	○電子回路Ⅰ ○電子回路Ⅱ ○応用電子回路Ⅰ ○応用電子回路Ⅱ	30 30 30 30	2 2 2 2
デジタル回路	30	○電子計算機通論 ○電子計算機工学Ⅱ	45 45	3 2	○コンピュータ工学Ⅰ ○コンピュータ工学Ⅱ	30 30	2 2
有線電気通信工学	30	通信工学Ⅰ 通信工学Ⅱ	45 45	2 2	通信工学Ⅰ 通信工学Ⅱ	30 30	2 2
データ通信工学	30	情報理論Ⅰ 情報理論Ⅱ システム工学Ⅰ システム工学Ⅱ	45 45 45 45	2 2 2 2	情報理論Ⅰ 情報理論Ⅱ 情報システム工学 ネットワーク工学Ⅰ	30 30 303 0	2 2 2 2
数学	60	○微積分学Ⅰ ○微積分学Ⅱ	90 90	4 4	微分学(*1) 積分学(*1) ○微分積分学(*2) 多変数の微分積分 線形代数	30 30 60 30 30	2 2 4 2 2
物理	60	○物理学Ⅰ ○物理学Ⅱ	90 90	4 4	○物理学入門(*1) 基礎物理学(*1) 物理学Ⅰ(*1) 物理学Ⅱ(*1) 物理学入門演習(*2) ○物理学(*2) 応用物理	30 30 30 30 60 60 30	2 2 2 2 2 4 2

(注2) *1は、01生のみ適用

*2は、02生のみ適用

4 資格試験受験にために履修が必要な又は望ましい科目

(1) 自然環境工学科

ア 各施工等に係る資格

授業科目名	免許・資格等名 受験科目免除の 有無	試験	土木 施工 技術 者	理 技 士	一 級 土 木 施 工 管	理 技 士	一 級 建 築 施 工 管	事 施 工 管 理 技 士	一 級 管 工 事 二 級 管 工	理 技 士	一 級 造 園 施 工 管	理 技 士	一 級 建 築 士	一 級 塗 装 施 工 管	理 技 術 者	備 考
			無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無
工 学 基 礎	コンピュータリテラシー															
	情報リテラシー															
	土木工学基礎概論	○	○													
	土木材料学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	コンクリート工学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	構造力学1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	構造力学2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	土質工学1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	土質工学2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	水理学1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	水理学2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	測量学I	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	測量学II	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	製図	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
工 学 専 門	鉄筋コンクリート工学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	鋼構造工学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	道路工学	○	○			○							○			
	都市計画	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	交通工学	○	○			○							○			
	水処理工学	○	○	○	○	○	○				○	○	○			
	ランドスケープ論			○							○					
	環境工学概論	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	土木施工法	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	施工管理I	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	施工管理II	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	行政法	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	環境技術英語	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	電気機器工学	○	○	○	○	○	○				○	○	○			
	機械工学概論	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○			
	測量実習I	○														
	土木実験	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	環境実験								○		○	○	○			
	植物・バイオ実験								○		○	○				

イ 測量士補資格

測量に関する科目から必要単位を履修することにより、卒業後申請のみで測量士補の資格を取得できる。

なお、測量士補登録後一年間の実務経験を経て、申請後に測量士の資格を取得できる。

測量に関する科目
土木工学基礎概論
測量学Ⅰ
測量学Ⅱ
測量実習
土質工学Ⅰ
土質工学Ⅱ
水理学Ⅰ
水理学Ⅱ
構造力学Ⅰ
構造力学Ⅱ
都市計画
計画学
行政法
地球環境概論
交通工学
道路工学
土木実験

ウ ビオトープ管理士資格

以下の必要科目単位を取得することにより、筆記試験が50%免除される。

2級ビオトープ施工管理士	2級ビオトープ計画管理士
行政法	行政法
緑地環境工学	緑地環境工学
ランドスケープ論	ランドスケープ論
施工管理 I	都市計画

エ 環境再生医資格

認定講習の項目に対応する本学履修科目から必要単位を履修することにより、環境再生医（初級）の資格が認定される。

再生医認定項目	本学対応科目	
1.地球環境問題・自然環境概論	地球環境概論	2
	生命と環境の科学	2
	配当単位	4
	必要単位	4
2.自然環境再生	緑地環境工学	2
	環境工学概論	2
	景観デザイン論	2
	配当単位	6
	必要単位	4
3.物質循環	資源利用論	2
	エコマテリアル論	2
	配当単位	4
	必要単位	4
4.環境教育・市民活動	エコライフ論	2
	地域社会環境学	2
	ランドスケープ論	2
	配当単位	6
	必要単位	4
5.環境行政・環境法令	行政法	2
	環境アセスメント	2
	配当単位	4
	必要単位	2
配当科目合計		24
必要単位合計		18

才 樹木医補

以下の認定養成科目を受講し単位認定することにより樹木医補の資格が認定される。

	講義科目分類	単位	実験・実習科目分類	単位
樹木の分類	植物分類学	2	樹木分類学演習（注）	4
樹木の生態・生理	森林生態学	2	地域生態学実習	8
植物病理	環境微生物学	2		
樹木医学	樹木再生学	2	※	4
造園学	緑地環境工学	2	景観デザイン論	2
			ランドスケープ論	2
樹木医補総合	環境工学概論	2	緑の野外実習野外実習大学 (宮崎大学単位互換科目)	1
			森林・林業野外実習（注）	4
	ビオトープ論	2		

※樹木医学研究にかかる「卒業研究」は実験・実習科目として認定される

注1) 認定予定科目

(2) 建築デザイン学科

- ア 建築士関連資格を受験するために必要な履修科目と単位数及び本学での教科との関連を一覧で示す。
- イ 一級建築士は大学卒業直後から受験が可能。試験に合格後、実務経験2年以上あれば一級建築士として登録することが可能。
- ウ 二級建築士及び木造建築士は大学卒業年に受験が可能。学科試験合格後に設計製図（即日設計）を受験する。

分類	本学での教科 (建築デザイン・インテリアデザイン・VRデザインの各分野に共通) (アンダーラインのある科目は必修を示す。)	本学の 必修 単位	必要最低単位数	
			一級	二級 木造
建築設計 製図	<u>基礎製図</u> , <u>インテリア都市デザイン演習I・II・III</u> , <u>インテリア都市デザイン演習IV・V</u>	8	7	5
建築計画	<u>建築計画I・II</u> , <u>インテリア計画I・II</u> , 建築都市デザイン, <u>建築史</u> , <u>福祉環境計画</u> , 都市デザイン特論, 建築デザイン特論, 福祉環境デザイン特論	8	7	7
建築環境工学	環境工学概論, 環境工学I, 環境工学II, 環境デザイン特論	2	2	
建築設備	<u>建築設備</u>	2	2	
構造力学	<u>構造力学I・II</u> , 構造力学III	4	4	
建築一般 構造	建築構法, 構造デザイン, <u>RC構造</u> , 木質構造, <u>鉄骨構造</u> , 耐震防災特論, 特殊構造特論	4	3	
建築材料	<u>建築材料</u> , 建築材料・構造実験	2	2	
建築生産	<u>建築施工</u> , インテリア施工, 建築コストマネジメント, 建築生産特論	2	2	
建築法規	<u>建築法規</u>	2	1	
その他	<u>建築CAD</u> , 建築3DCG, 測量学I, 建築測量,	2	適宜	
合計最低単位		36	30	20
① 本学履修規定に従って必修科目を全て取得すれば、選択した分野に関係なく、一級建築士及び二級建築士・木造建築士受験のための必要最低単位は満たされる。				
② インテリアプランナー, インテリアコーディネーター, キッチンスペシャリスト及びカラーコーディネーターなどの資格は履修科目や取得単位数に制限は無く、在学中にも取得が可能である。				